

株主・投資家のみなさまへ

第117期 第2四半期ビジネスレポート

2018年4月1日～2018年9月30日

証券コード: 6516

<http://www.sanyodenki.co.jp>

SANYO DENKI

117th



株主のみなさまには、ますますご清栄のこととおよろこび申し上げます。

第117期の第2四半期のビジネスレポートのお届けにあたりまして、ひとことごあいさつを申し上げます。

当社グループでは、第8次中期経営計画の2年半が経過しました。

この計画では、

- 1 品質・性能・信頼性において、「世界一の製品」を絶え間なく開発し続けること。
- 2 世界中のお客さまに、均一で高品質な製品やサービスを提供するために、すべてのグループ会社がその経営方針を同一にして「ボーダーレス」の営業体制にすること。
- 3 すべての情報の流れを「リアルタイム」にし、世界中どこからでも、企業活動に関わる現在のあらゆる状況を把握できるようにすること。

- 4 生産効率を高め、品質を向上させ、あわせて在庫の削減や生産管理に役立つ「工場の自動化」を構築すること。

を目指しており、当第2四半期ではそれぞれ具体的な効果が出てまいりました。

長野県上田市の工場では、モータの生産の自動化が進み、またサーボアンプのプリント基板の自動化ラインが効果を上げています。

フィリピンの工場では、昨年の秋に拡張された工場での生産能力が増強され、またフィリピンでのテクノロジーセンターが間もなく完成いたします。

新製品の開発については、後述のとおり、業界No.1を誇れる競争力のある多くの製品が、計画どおりに完成いたしました。

当第2四半期の事業の結果は後述のとおりですが、主に米中の貿易摩擦に起因して、当社の主要な市場のひとつであるFA業界の需要が減速しはじめており、下半期の市場動向に注意が必要です。

当第2四半期末の配当金につきましては、1株あたり55円といたしました。

株主のみなさまには、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

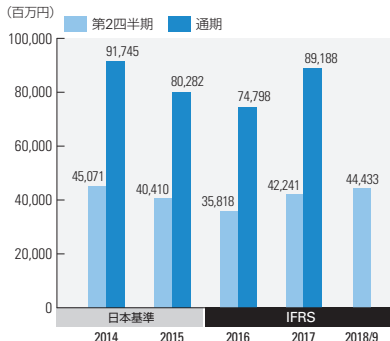
2018年12月

代表取締役兼社長 山本茂生

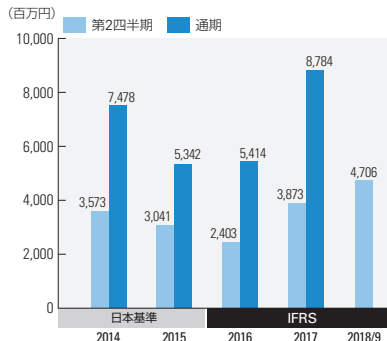
財務ハイライト

2016年度より、国際財務報告基準（IFRS）に基づき算出しています。

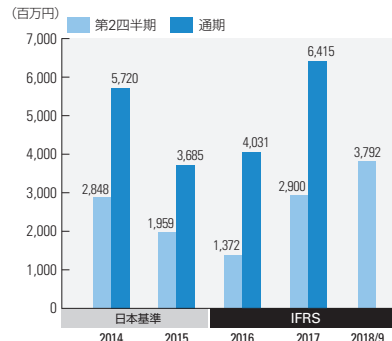
●売上収益



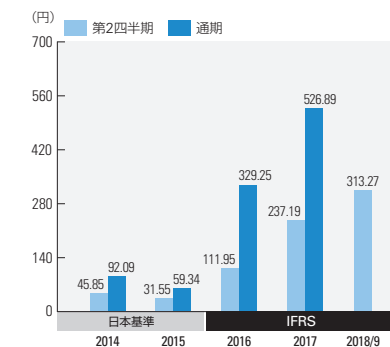
●営業利益



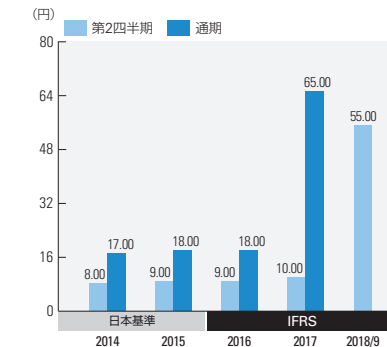
●親会社の所有者に帰属する当期利益



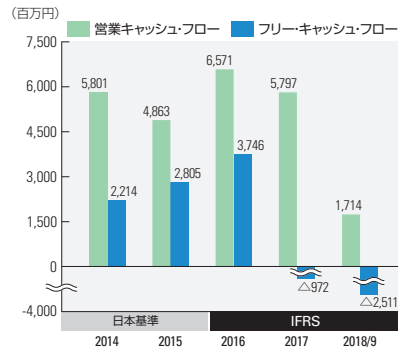
●基本的1株当たり当期利益



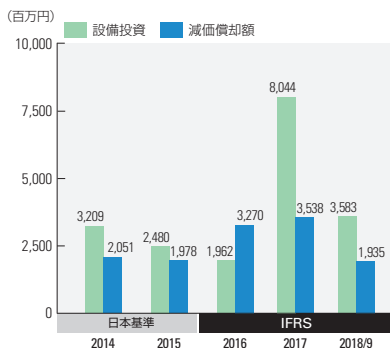
●1株当たり配当金



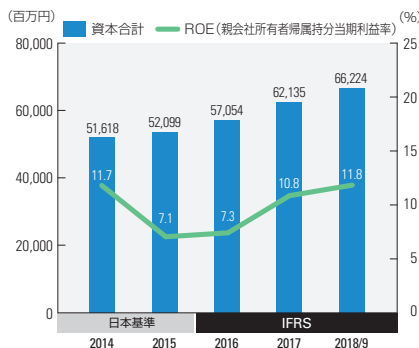
●キャッシュ・フロー/フリー・キャッシュ・フロー



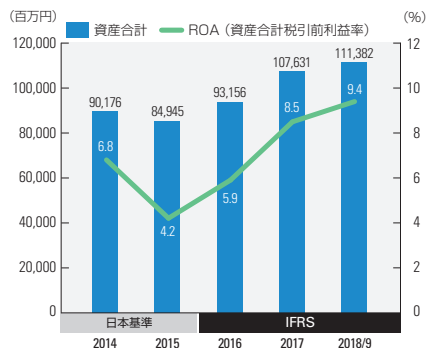
●設備投資/減価償却額



●資本合計/ROE(親会社所有者帰属持分当期利益率)



●資産合計/ROA(資産合計税引前利益率)



※ 1. 2017年10月1日付で普通株式5株を1株に併合しています。これにともない2016年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、基本的1株当たり当期利益を算定しています。

2. 従来、連結財務諸表の作成にあたっては、海外連結子会社14社の3ヶ月前の財務諸表を使用し、連結会計上必要な調整をおこなっていましたが、連結財務諸表のより正確な把握を図るために、2014年度より海外連結子会社においても当社と同時期の財務諸表を使用する方法に変更しています。このため、2014年度実績には、海外連結子会社の2014年1月1日から同3月31日までの3ヶ月間の業績も含まれています。

営業概況

当第2四半期連結累計期間における日本経済は、輸出の伸びがやや鈍化したものの、企業の設備投資は製造業の能力増強や省力化投資などの活発化により回復基調を強めるなど、緩やかな回復が続きました。

そのような中で、当社グループの主要な販売市場である工作機械・ロボット・半導体製造装置などの設備産業業界においては、一部の市場に停滞感があったものの、全体として需要は堅調に推移しました。

その結果、当第2四半期連結累計期間における連結売上収益は44,433百万円（前年同期比5.2%増）となり、連結営業利益は4,706百万円（前年同期比21.5%増）、連結税引前四半期利益は5,126百万円（前年同期比28.3%増）、親会社の所有者に帰属する四半期利益は3,792百万円（前年同期比30.8%増）となりました。

その一方で、半導体製造装置メーカー各社が生産調整を実施したことに加え、米中貿易摩擦を契機に中国での設備投資全般が縮小傾向となり、受注が低調となったため、受注高は41,776百万円（前年同期比14.0%減）、受注残高は19,886百万円（前年同期比5.3%減）となりました。

売上収益

444億33百万円 前年同期比**5.2%増**

営業利益

47億6百万円 前年同期比**21.5%増**

税引前四半期利益

51億26百万円 前年同期比**28.3%増**

親会社の所有者に帰属する四半期利益

37億92百万円 前年同期比**30.8%増**

受注高

417億76百万円 前年同期比**14.0%減**

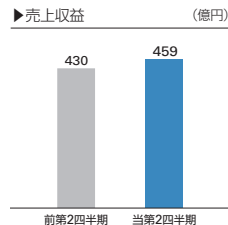
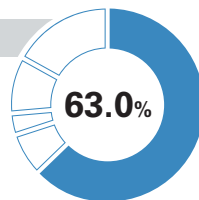
受注残高

198億86百万円 前年同期比**5.3%減**

セグメント別の業績

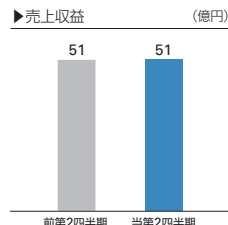
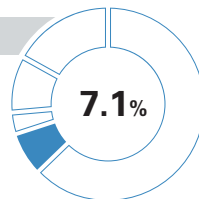
日本

日本には、当社および連結子会社の山洋工業株式会社、山洋電気テクノサービス株式会社があります。セグメント売上収益は45,960百万円（前年同期比6.8%増）となり、セグメント利益は3,237百万円（前年同期比14.6%増）となりました。



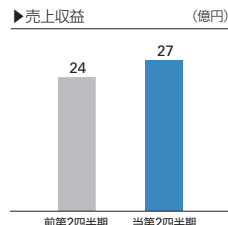
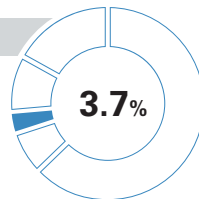
北米

北米には、連結子会社のSANYO DENKI AMERICA,INC.があります。セグメント売上収益は5,181百万円（前年同期比0.7%増）となり、セグメント利益は360百万円（前年同期比20.9%増）となりました。



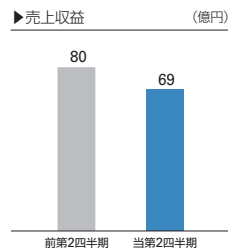
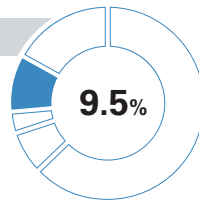
ヨーロッパ

ヨーロッパには、連結子会社のSANYO DENKI EUROPE S.A.およびSANYO DENKI GERMANY GmbHがあります。セグメント売上収益は2,747百万円（前年同期比10.3%増）となり、セグメント利益は255百万円（前年同期比15.0%増）となりました。



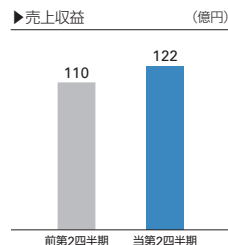
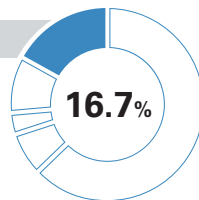
東アジア

東アジアには、連結子会社の山洋電気（上海）贸易有限公司、山洋電気（香港）有限公司、台灣山洋電気股份有限公司、SANYO DENKI KOREA CO., LTD.、上海山洋電気技术有限公司、山洋電気貿易（深圳）有限公司、中山市山洋电气有限公司および山洋電気精密機器维修（深圳）有限公司があります。セグメント売上収益は6,905百万円（前年同期比13.8%減）となり、セグメント利益は440百万円（前年同期比22.3%増）となりました。

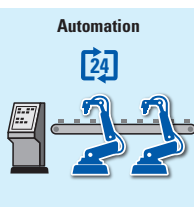
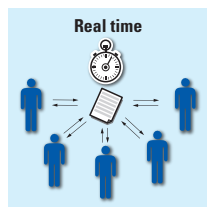


東南アジア

東南アジアには、連結子会社のSANYO DENKI PHILIPPINES,INC.、SANYO DENKI SINGAPORE PTE.LTD.、SANYO DENKI INDIA PRIVATE LIMITEDおよびSANYO DENKI (THAILAND) CO.,LTD.があります。セグメント売上収益は12,202百万円（前年同期比10.9%増）となり、セグメント利益は607百万円（前年同期比56.9%増）となりました。



第8次中期経営計画



スタートから2年半が経過、 取り組みの成果が明確に

当社グループの第8次中期経営計画は、「世界一の製品開発」「ボーダーレス」「リアルタイム」「工場の自動化」の4つのテーマで構成されています。

2016年4月にスタートしたこの計画も、今期で3年目を迎え、具体的な成果が現れてきました。

折り返しの年度である今期は、「工場の自動化」の仕上がり年度と位置づけ、取り組みを一層加速させています。

工場の自動化は仕上がり段階に

独自の自動化ライン“生産革新ライン”を導入し、工場の自動化を推進しています。この“生産革新ライン”は、山洋電気ブランドの製品を組み込んだ、当社グループならではの自動化生産ラインです。

サーボモータ、ステッピングモータの主要工場であるかんがわ神川工場では、組立てラインの自動化が進んでいます。

また、サーボンプ、ステッピングドライバの主要工場であるふじやま富士山工場では、プリント基板の実装、はんだ付けなどの工程の自動化が完了しました。

スピーディで安定した生産体制を実現し、生産効率と製品品質を向上させています。



かんがわ 神川工場 エンコーダ組立てライン



ふじやま 富士山工場 プリント基板実装ライン

SANYO DENKI PHILIPPINES, INC.

生産能力拡大・テクノロジーセンターの開設

2018年1月、フィリピン第3工場の増築が完了しました。この増築により、フィリピン工場全体の生産能力は約20パーセントアップしました。

工場の隣接エリアには、製品の設計・開発をおこなうテクノロジーセンターも開設予定です。このテクノロジーセンターでは、



第3工場

フィリピン工場で生産される製品の設計をおこないます。日本国内のテクノロジーセンターと連携し、よりスピーディで、高品質な製品を提供していきます。



テクノロジーセンター 完成予想図

本社ショールームをリニューアル

2018年10月、本社ショールームをリニューアルオープンしました。

このショールームには、簡単に動作させることができる“体感デモ機”を設置しています。

お客さまの技術的な課題の解決や、製品知識の向上に活用できる機能を備えたショールームです。



代表取締役が2名体制に

経営体制の更なる強化のため、代表取締役を2名体制といたしました。



代表取締役
執行役員副社長 児玉 展全*

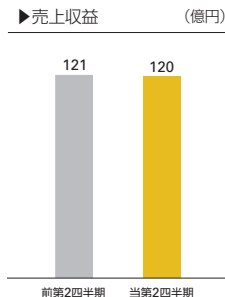
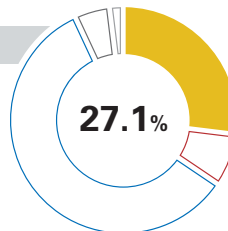
(※) 2018年4月1日付

事業部門別の業績

クーリングシステム事業

クーリングシステム製品「San Ace」は、通信機器や医療機器向けの需要は堅調でした。一方、ハイエンドサーバ向けおよびFA（ファクトリーオートメーション）向けの需要は減少しました。

その結果、売上収益は12,030百万円(前年同期比0.7%減)、受注高11,967百万円(前年同期比2.1%減)、受注残高3,977百万円(前年同期比7.9%増)となりました。



防水遠心ファン

San Ace 175W 9W2Tタイプ 新製品

業界トップ^{※1}の高風量、高静圧を実現した、φ175 × 69 mm厚の防水遠心ファンです。屋外設置の通信機器、太陽光発電用パワーコンディショナ、業務用冷蔵庫、空調設備、集塵機などに最適です。

※1 2018年12月現在。同サイズの産業用ファンと比較した場合。当社調べ。



ACDCファン

San Ace 225AD 新製品

業界トップ^{※1}の高風量、高静圧を実現した、φ225 × 99 mm厚のACDCファンです。ACDCコンバータを搭載しているため、AC電源で直接駆動できます。

新たに、遠心ファン・防水遠心ファンをラインアップしました。

通信機器用キャビネット、制御盤、熱交換機、空調システム、集塵機、ファンフィルターユニット、パワーコンディショナなどに最適です。

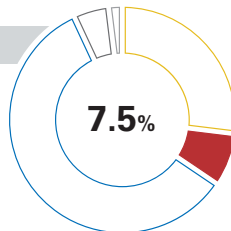
※1 2018年12月現在。同サイズの産業用ファンと比較した場合。当社調べ。



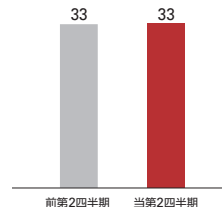
パワーシステム事業

パワーシステム製品「SANUPS」は、太陽光発電市場の停滞や情報通信市場の不調で需要が低迷しました。一方、工場設備向けや公共設備向けの需要は堅調に推移しました。

その結果、売上収益は3,325百万円(前年同期比0.2%増)、受注高3,657百万円(前年同期比5.8%減)、受注残高2,148百万円(前年同期比21.8%減)となりました。



▶売上収益 (億円)



常時商用給電方式UPS

SANUPS N11C-Li 新製品

リチウムイオン電池を搭載した常時商用給電方式UPSです。

使用温度範囲は-20～+55℃を達成。業界トップ^{※1}の性能です。極寒、酷暑の環境でも安心して使用することができます。

屋外キュービクルやコンテナ、防災監視設備、空調のない屋内環境での利用に最適です。

※1 2018年12月現在。無停電電源装置で同等の電圧、容量の場合。当社調べ。

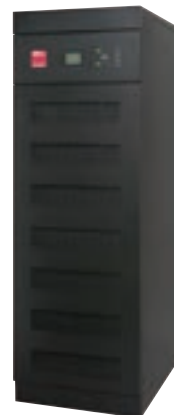


常時インバータ給電方式UPS

SANUPS A22A 新製品

業界トップの高効率94.5%^{※1}を達成した、高信頼の常時インバータ給電方式UPSです。
 三相4線 AC400V出力と、単相2線 AC200V出力をラインアップしています。
 停電や電圧低下が起きても無瞬断で電力を供給できます。

※1 2018年12月現在。無停電電源装置で同等の電圧、容量の場合。当社調べ。



キャビネット



キャビネット
(ハーフサイズ)

防災用ディーゼル発電装置

SANUPS G53A 新製品

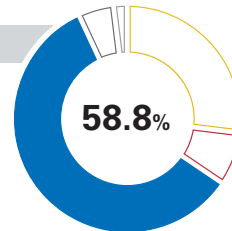
IoT機能を搭載した防災用ディーゼル発電装置です。
 Ethernet, RS-485などの汎用インタフェースを用いて、LANや周辺機器に接続できます。
 また、当社の無停電電源装置（UPS）と接続することで、安定した電源を途切れることなく、
 長時間供給し続けることができます。
 災害発生時の電力供給に貢献します。



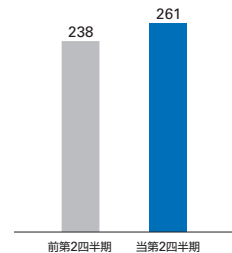
サーボシステム事業

サーボシステム製品「SANMOTION」は、射出成形機、電子部品実装機向けの需要は好調に推移したものの、半導体製造装置メーカー各社が生産調整を実施したことに加え、米中貿易摩擦を契機に中国での設備投資全般が縮小傾向となったため、受注が低調となりました。

その結果、売上収益は26,103百万円(前年同期比9.7%増)、受注高23,073百万円(前年同期比22.6%減)、受注残高12,164百万円(前年同期比11.0%減)となりました。



▶ 売上収益 (億円)



ACサーボアンプ

ACサーボアンプ「SANMOTION R 3E Model」 新製品

ACサーボアンプ「SANMOTION R 3E Model」のラインアップを拡充しました。

サーボアンプやモータの稼働データを取得し、装置の故障を予測できる機能を搭載しています。

5.5kWから30kWのモータをなめらかに動作できます。

工作機械、射出成形機などに最適です。



コントローラ

モーションコントローラ「SANMOTION C」 新製品

高速フィールドバスEtherCATインタフェースを搭載した、業界最小のモーションコントローラです。

ロボットや電子カムを制御できる高機能タイプと、PTP (Point-to-Point) 動作に特化した汎用タイプをラインアップしています。

ロボット、搬送装置、半導体製造装置などのモーション制御に最適です。



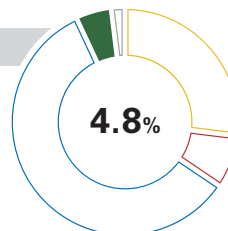
電気機器販売事業

産業用電気機器、制御機器および電機材料の販売は、医療・半導体関連向けの需要が堅調に推移しました。

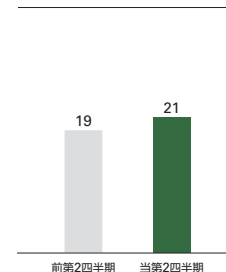
また、太陽光発電関連の国内需要は減少しましたが、新規案件の引合いが増加しました。

鉄鋼関連事業においては、新規設備投資および老朽化した生産設備の更新工事が一部先送りとなり、補修用予備品の納入もやや減少となりました。

その結果、売上収益は2,152百万円(前年同期比10.4%増)、受注高2,290百万円(前年同期比23.7%増)、受注残高828百万円(前年同期比107.9%増)となりました。



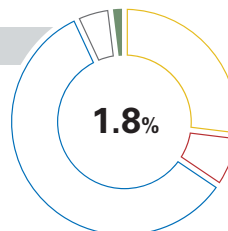
▶売上収益 (億円)



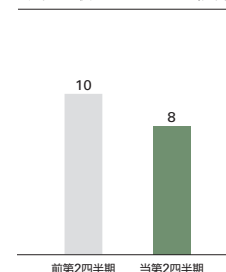
電気工事業

製鉄所内における電気工事は、老朽化した電気設備の更新工事および補修工事が計画的に実施され、堅調に推移しました。一方、省エネ型照明器具への更新工事の受注はありましたが、大型の太陽光発電所建設工事の需要は大幅に減少しました。

その結果、売上収益は821百万円(前年同期比21.9%減)、受注高786百万円(前年同期比5.6%減)、受注残高767百万円(前年同期比54.2%増)となりました。



▶売上収益 (億円)



連結財務諸表

連結 財政状態計算書 (要旨)

(単位：百万円)

	当第2四半期末 2018年 9月30日現在	前年度末 2018年 3月31日現在	増減額
資産			
流動資産	68,620	66,738	1,882
非流動資産	42,762	40,892	1,869
有形固定資産	25,252	23,720	1,531
無形資産	4,554	4,031	522
その他	12,954	13,140	△ 185
資産合計	111,382	107,631	3,751

負債

	当第2四半期末 2018年 9月30日現在	前年度末 2018年 3月31日現在	増減額
流動負債	33,522	34,849	△ 1,327
非流動負債	11,636	10,646	989
負債合計	45,158	45,495	△ 337
資本			
親会社の所有者に帰属する持分合計	66,216	62,127	4,088
非支配持分	7	7	0
資本合計	66,224	62,135	4,089
負債及び資本合計	111,382	107,631	3,751

連結 第2四半期損益計算書 (要旨)

(単位：百万円)

	当第2四半期 2018年4月1日～ 2018年9月30日	前第2四半期 2017年4月1日～ 2017年9月30日	増減額
売上収益	44,433	42,241	2,192
売上原価	32,710	31,307	1,403
売上総利益	11,723	10,934	789
販売費及び一般管理費	7,125	7,131	△ 5
その他の収益	112	77	35
その他の費用	3	7	△ 4
営業利益	4,706	3,873	833
金融収益	468	132	336
金融費用	48	11	37
税引前四半期利益	5,126	3,994	1,132
法人所得税費用	1,333	1,093	239
四半期利益の帰属			
親会社の所有者	3,792	2,900	892
非支配持分	0	0	0
四半期利益	3,792	2,900	892

連結 第2四半期キャッシュ・フロー計算書(要旨) (単位：百万円)

	当第2四半期 2018年4月1日～ 2018年9月30日	前第2四半期 2017年4月1日～ 2017年9月30日	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,714	3,162	△ 1,448
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,226	△ 2,593	△ 1,632
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,182	△ 936	3,119
現金及び現金同等物に係る換算差額	176	273	△ 97
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 152	△ 93	△ 59
現金及び現金同等物の期首残高	13,182	13,766	△ 584
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,029	13,673	△ 643

株式情報／会社情報

株式総数および株主数 (2018年9月30日現在)	
発行可能株式総数	50,000,000株
発行済株式の総数	12,972,187株
当第2四半期末株主数	4,935名

大株主 (2018年9月30日現在)		
株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
協同興業株式会社	1,845	14.23
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	545	4.20
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	497	3.84
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG	430	3.31
山洋開発株式会社	318	2.46
日本生命保険相互会社	278	2.15
株式会社みずほ銀行	227	1.75
株式会社八十二銀行	195	1.50
三井住友信託銀行株式会社	194	1.50
東京海上日動火災保険株式会社	191	1.48

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 当社は自己株式867千株を所有しておりますが、上記の表には記載しておりません。

所有者別株式分布状況 (2018年9月30日現在)



会社概要 (2018年9月30日現在)	
会社名	山洋電気株式会社
創業	1927年8月
本社所在地	〒170-8451 東京都豊島区南大塚3-33-1 TEL 03-5927-1020
資本金	99億円
社員数	3,456名 (グループ全体)

グループ会社 (2018年9月30日現在)	
日本	山洋工業株式会社 山洋電気テクノサービス株式会社
アジア	SANYO DENKI PHILIPPINES, INC. 中山市山洋电气有限公司 山洋电气 (上海) 贸易有限公司 上海山洋电气技术有限公司 山洋電気 (香港) 有限公司 山洋电气贸易 (深圳) 有限公司 山洋电气精密机器维修 (深圳) 有限公司 台灣山洋電氣股份有限公司 SANYO DENKI KOREA CO., LTD. SANYO DENKI SINGAPORE PTE. LTD. SANYO DENKI (THAILAND) CO., LTD. SANYO DENKI INDIA PRIVATE LIMITED
北アメリカ	SANYO DENKI AMERICA, INC.
ヨーロッパ	SANYO DENKI EUROPE S.A. SANYO DENKI GERMANY GmbH

取締役および監査役 (2018年11月13日現在)	
※代表取締役	山本 茂生
※代表取締役	児玉 展全
※取締役	田村 薫
※取締役	松本 吉正
※取締役	宮田 繁二郎
取締役	三宅 雄一郎
取締役	鈴木 徹
取締役	諏訪 宏
常勤監査役	畑中 佐近
常勤監査役	天野 文雄
監査役	小倉 久幸
監査役	山本 武

※印の取締役は、執行役員を兼務

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年4月1日から起算し3ヶ月以内
期末配当受領株主確定日	毎年3月31日
中間配当受領株主確定日	毎年9月30日
公告の方法	電子公告の方法によりおこないます。 (やむを得ない事由によって電子公告による 公告をすることができない場合は、日本経済 新聞に掲載しておこないます。)
株主名簿管理人	東京都中央区日本橋茅場町1-2-4 日本証券代行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区日本橋茅場町1-2-4 日本証券代行株式会社 本店
お問合せ先	〒168-8620 東京都杉並区和泉2-8-4 日本証券代行株式会社 代理人部 電話 0120-707-843 (フリーダイヤル)

●各種手続のご連絡先

- ・未払配当金のお支払いについては、株主名簿管理人へご連絡ください。
- ・住所変更、単元未満株式の買取・買増、配当金受取方法の指定など証券会社をご利用の株主さまは、お取引の証券会社へご連絡ください。

※証券会社をご利用でない株主さまへ
特別口座の口座管理機関である日本証券代行株式会社へご連絡ください。

特別口座での手続用紙のご請求はインターネットでも受け付けております。

ホームページアドレス
《日本証券代行》<https://www.jsa-hp.co.jp/name/index.html>

当社「IR情報」ホームページアドレス
<http://www.sanyodenki.co.jp/ir/index.html>

本ビジネスレポートには、業績予想などに関する記述が含まれておりますが、実際の業績は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

山洋電気株式会社

本社 〒170-8451 東京都豊島区南大塚3-33-1
電話 (03) 5927 1020
ホームページ <http://www.sanyodenki.co.jp>